

Infoseek 検索機能搭載のためのカンペ

1. dic_main.dic 内、「MouseDownClick_0」の中を「Onsearchopen」に書き変える
2. 同辞書の一番最後に、以下の内容を書く。

Onsearchopen

```
{
    "¥![open,inputbox,infosearch,-1]¥0¥s[0]あ、¥w7 検索ですか？ ¥n¥w7 ならここに何か卑猥な言葉を入れてください。 ¥e"
```

infosearch

```
{
    if reference[1] == ""
    {
        "¥![open,inputbox,infosearch,-1]中身空っぽじゃないですか、 ¥w7¥n 意地でも検索させますからね。 ¥w9¥n もう一回お願いします。 ¥e"
    }
    else
    {
        _in=reference[1]
        _url=GETSTRURLENCODE(_in , 1) //最新版では STRENCODE(_in,1,'url')
        "¥0¥s[0]%_in で検索します。 ¥w9¥j[http://search.www.infoseek.co.jp/Web?qt="+ %(_url) ]¥e"
    }
}
```

【YAYA を全く知らない人向けの辞書内容解説】

- On~
新しい機能を開発しても、YAYA の場合行頭にこれをつけてないと機能しません（一部例外除く）。里々などと言うところの「*なにがし」ポジションと思ってください。
- if, else
英単語の「もしも」、「それ以外」。仲間に「elseif」もありますが、今回は使っていません。いわゆる「条件付け」を行うためのもので、今回は「inputbox の中身が空っぽなら (<<if reference[1] =="" {~}>>) これを出してね、そうでなければこっちのトークを出してね (<<else{~}>>)」という具合に使いました。
- `_in = reference[1]`
この文章は、「変数_in は reference[1]と全く同じ内容だよ」という意味合いを持ちます。。また、「_in」の_が持つ意味は、「この変数は一時的にしか使わないから、使ったらすぐに中身を捨てるよ」という意味です。一回だけの検索結果を永続して保存しても意味がないので、今回は_in を使っています (_url も同じく)。
- GETSTRURLENCODE //最新版では STRENCODE
YAYA が SHIORI として持っている能力 = 「システム関数」の一つで、これを使うと入力した単語が URL 用の文字列に変換されて返ってきます。これらのシステム関数の数々は他にもあります。「YAYA リファレンス」で Google 検索かけると幸せになれるかも。